

高崎市文化財調査報告書第227集

平成19年度
市内遺跡発掘調査報告書

2008

高崎市教育委員会

序

高崎市は群馬県を代表する赤城・榛名・妙義の「上毛三山」と言われる山々を見ることのできる場所に位置しています。古くから街道が町中を通り商都・宿場町として発展してきました。現在、鉄道では上越新幹線・長野新幹線が走り、道路では高速道・関越自動車道、上信越自動車道など首都圏と日本海等を結びつける交通の中継点となっています。「交通拠点都市」と称している本市は今年3月に群馬県東部・東毛まで高速道路を接続させました。この道路は北関東自動車道となし、完成すれば東北自動車道を経由して茨城県東端まで約90分で到達できるとされています。北陸新幹線は高崎から金沢まで平成24年には延長される予定です。高速鉄道・高速道路の開通は関連の整備を計画しています。これら鉄道・道路の整備発展は交通都市をめざす市にかなうものであります。高崎市は平成の合併でかなり広い行政地域に拡大されました。文化財においても数段の内容、広がりをもつようになりました。今後さらに増加、追加されていくと考えられます。今年も例年と同じく市内遺跡では開発に伴い事前調査として試掘調査を市内において実施してまいりました。地域が広がり、試掘調査の件数も増加してきています。すべて満足の結果というところまではいきませんでしたが、それなりの成果を得ることができました。発掘調査に結びついた試掘調査は8件、次年度の予定となるものは3件でありました。他に開発実施されれば発掘調査の必要となるものも数件ありました。都合で本報告書でそれら全部を取り上げることはできません。本報告書も速報的なものとなりました。調査に協力していただきました関係者各位の皆様感謝申し上げます。

平成20年3月

高崎市教育委員会
教育長 砂田威夫

例言

1. 本書は平成19年度事業の市内遺跡の結果報告書である。
2. 事務局 神戸聖語 斉藤寛方 須田奈保子
3. 調査担当 田口一郎 神戸 肇
4. 試掘調査地、トレンチ、遺物の撮影は担当者がおこなった。
5. 試掘調査の記録、出土遺物は市教育委員会で保管している。
6. 試掘調査は緊急対応の確認調査であり遺物の取り上げ方に不完全がある。土器説明は紙面都合ないところがある。
7. レイアウト、内容は担当者の都合により統一されていない。
8. 本文は7～23頁（神戸）、24～34頁（田口）と頁で前後に分け合冊の形式である。

凡例

1. 本文頁にある頭数字と名称は試掘調査地名である。
2. 上記1.は試掘調査一覧表のNo.に対応している。
3. 本文中の記号A、B、FP、FA、C、YPは降下テフラの略で次のように表記される。
A : As-A ; 浅間Aテフラ (1783年頃降下)
B : As-B ; 浅間Bテフラ (推定1108年)
FP : Hr-FP ; 榛名・伊香保テフラ
(6世紀中頃)
FA : Hr-FA ; 榛名・二ツ岳渋川テフラ
(6世紀初頃)
C : As-C ; 浅間Cテフラ (3世紀後半)
YP : As-YP ; 浅間板鼻黄色テフラ
(13,000～14,000頃浅間山より噴出)
4. 本文中の位置図は高崎市発行の2,500分の1の地図を原図として縮小あるいは拡大して使用した。
5. 本文中の図のサイズは本文中に表してある。
6. 抄録は裏表紙に印刷。

目次

序 例言 凡例 目次

平成19年度高崎市市内試掘調査一覧表	1～3
高崎市地区図	4
平成19年度試掘調査位置図	5～6
18. 並榎	7
21. 貝沢正天	8
26. 高岡東沖	9
31. 上滝	10
32. 元島名	11
41. 中居岡東	12
57. 山名北若宮	13
60. 倉賀野下新堀	14～15
64. 剣崎六万坊	16～17
65. 江木南土井	18
66. 高松町	19～21
76. 下佐野一本木	22
82. 下豊岡	23
15・54. 引間町	24
67. 貝沢町西沖遺跡	25
70. 柴町	26
71. 下之城遺跡	27
参考資料	28
72. 浜川町餅井貝戸遺跡	29
73. 菅谷町村東遺跡	23
82. 下豊岡	30～32

平成19年度 市内試掘調査一覧表

No.	所在地	開発内容	面積(m ²)	調査内容
1	下中居町八幡前254 他	住宅分譲	1,638	盛土、泥流土層
2	下中居町八幡前280-7	宅地分譲	1,518	B混土層。泥流土層。遺構、遺物なし。
3	箕郷町矢原833-1 他	健康衛生協会	2,661	縄文中期包含層・遺構。
4	柳川町52-1他	建物新築		乱れたB純層。下層は泥流。
5	藤塚町尼街道376-1 他	土地分譲	2,019	砂礫層。遺構、遺物なし。
6	福島町705-3	伝説センター用シェルター設置	405	B混土の溝。土器片あり。FA洪水土層あり。
7	箕郷町白川大沼1743	建売分譲住宅	1,410	B P純層。遺構未検出。
8	江木町南土井1323-7	土地分譲	3,773.46	B純層、FA洪水土層あり。
9	京目町不動前1475-1 他	特別養護老人ホーム増築	1,923.38	B P下畦畔検出。
10	上中居町1380-2	区画道路築造	240	B混土層より下層にビット。末末期磁器片。
11	倉賀野町上稲荷前872-2	分譲住宅	1,288.91	B純層なし。直下黒色土なし。FAなし。下は砂質。
12	菅谷町万年貝戸1426 他	土地分譲	2,571.00	平安時代竪穴住居土・土坑等。
13	飯塚町内町370-1	ガソリンスタンド建築	2,431.65	B下畦畔検出。他は遺構なし。
14	飯塚町塚越1018-1 他	共同住宅新築	1,199	B混土の攪拌。下は泥流。遺構なし。
15	引間町1078-1	未定	832.99	溝・土坑・竪穴住居。
16	上里見町新井219-1	共同住宅新築	1,092	B純層は部分的。遺構は確認されず。
17	下和田町5丁目442-33	共同住宅新築	1,425.88	攪乱。
18	並根町211-1 他	共同住宅新築	239.04	平安時代の土坑、住居あり。
19	東町134-1 他	共同住宅新築	1,630.36	B下黒色土層なし。FAなし。攪乱。
20	箕郷町生原八反島1125-1 他	宅地開発	2,898	縄文中期・平安時代集落址。
21	貝沢町正天1448-1 他	未定	402.64	南北方向にC混土の大溝、小溝。
22	大橋町262-4 他	共同住宅新築	287.37	90cm厚のFA洪水層。直下にC混土の黒色土。
23	保護田町中里前2221-1 他	工場敷地増設	3,388.88	古代溝・土坑等。
24	引間町小池1005-5	浄化槽設置		攪乱。
25	足門町森下759-1	電波塔建設	100.00	攪乱。
26	高岡町東沖4551 他	商業施設開発	3,702	平安時代の水田跡あり。
27	上中居町岡東1391-2	貸事務所新築工事	474.57	攪乱。遺構なし。
28	中居町1丁目18-19	一般住宅新築工事	163	Bなし。FA洪水下。遺構確認されず。
29	東町3-5 他		1,653.40	B礫石層あり。B水田確認できず。FA洪水層なし。下層はシルト。
30	貝沢町北512-1他	共同住宅建設	948.99	B。FAなし。
31	上滝町557-1 他	店舗建設（コンビニ）	2,221	B水田跡の可能性あり。FA下に畦畔検出。
32	元島名町新堀501-1 他	コンビニ店舗建設	2,314	B下に畦畔検出。
33	保護田町坪出2380 他	工場敷地増設	2,581.83	平安時代竪穴住居土・土坑等。
34	京目町不動西1421-1	コンビニ店舗建設	3,038	B下に畦あり。下層は遺構なし。
35	榎高町1413-1 他	共同住宅	344	平安時代竪穴住居土・土坑等。
36	箕郷町和田山地蔵堂448-3 他	宅地開発	1,958	縄文土坑・古墳周壁。
37	福島町767-1	コンビニ店舗建設	1,910	弥生竪穴住居土・古代道状遺構・土坑・溝。
38	飯塚町800 他	結婚式場建設	9,720.40	B純層は部分的。あるいは攪拌。FAなし。
39	足門町唐沢167-1	特別養護老人ホーム用地	1,249	溝。
40	倉賀野町横東1946	宅地開発	1,828	B混土の溝あり。

41	中居町岡東1360-1 他	共同住宅建設	999	古墳前後期の遺構の可能性。土器出土。
42	新保町稲荷木1066 他	宅地開発	4,631	A,B,FA土層すべてなし。土器もなし。
43	足門町唐沢167-1	特別養護老人ホーム	1,249.00	
44	西島町中沖319-1 他	診療所建設	1,817	A,B,FA土層なし。遺物なし。土地整備済。
45	倉賀野町2,462-6	事務所・作業所	1,903	B純層、F A層なし。上部混雑。造成時影響。
46	並根町351-3 他	販売店舗建築	647.47	流れ込み土器あり。東南傾斜地形。
47	倉賀野町清水215-1	屋内・運動場改築		C P・B P純層。
48	新保町塚越993 他	特別養護老人ホーム建設	4,590	B純層、F A土層なし。溝、ピットあり。縄文土器片出土。
49	中泉町646-7	共同住宅建築	673	中世後期土器。
50	箕郷町生原651-4	屋内運動場改築	251.00	風倒木痕。
51	下佐野町一本木715-4 他	医院・駐車場建設	1,983	現表土層以下泥炭土層。遺物なし。
52	貝沢町西田78 他	宅地分譲	2,198	現表土層以下火山灰性シルト、砂礫層。
53	東園分寺町薬師道南150-1	携帯電話基地局建設	64	平安時代竪穴住居・土坑等。
54	棟高町1337-1 他	土地売買	569	平安時代竪穴住居・土坑等。
55	貝沢町929-1	集合住宅	999	B降下以後の溝2ヶ所。B下遺構確認されず。F Aなし。遺物なし。
56	飯塚町十二461-1 他	共同住宅建設	1,972.39	B純層なし。F Aなし。盛土1m以上。攪乱。
57	山名町北若宮206-1 他	砂利採取の為	7,457	A、B純層なし、F A層なし。砂礫層。平安土器片出土。
58	中尾町272-10	浄化槽設置工事	3	遺構なし。
59	山名町赤沼59-1	通信鉄塔の設置	100	砂礫層。道構、遺物なし。
60	倉賀野町下新堀	土地区画整理事業	約22,000	B下に畦確認。他に自然溝。F Aなし。
61	鼻高町897 他	ガス輸送導管埋設工事	704	遺構、遺物なし。
62	金子町愛宕2046-8	個人住宅浄化槽設置		遺構、遺物なし。
63	下宮田町中村318	通信鉄塔設置	25	縄文中期包含層。
64	剣崎町六万坊380-3 他	共同住宅建築	776	古墳時代の住居跡。縄文、土器器片出土。
65	江木町南土井1367の一部	共同住宅建設	764	B下畦畔検出。
66	高松町5-28	市医療保険センター・新図書館建設	12,936.53	弥生・古墳・平安・江戸～明治の遺構あり。遺物出土。
67	貝沢町西沖731-1 他	貸し駐車場	2,743	B P下畦畔検出。
68	和田多中町229-1	共同住宅建設	780.89	江戸時代A P処理土坑。
69	あら町70-1 他	共同住宅建設	405	攪乱・江戸時代陶磁器類。
70	栄町53 他	新築事務所1/建設	1,987.51	江戸時代A P処理土坑。
71	下之城町53 他	集合住宅建築	2,411	弥生土層・古墳時代土坑。
72	浜川町餅井貝戸1934-1 他	露土資材置場	2,034	B P下畦畔検出。
73	菅谷町村東20-103 他	売買	55,105	平安時代竪穴住居・土坑等。
74	引間町271-3	浄化槽設置		
75	浜川町矢島278-1 他	診療所建設	1,803	攪乱。B 軽石層は一部。F Aなし。
76	下佐野町一本木679-1 他	建売分譲住宅用地	1,205.29	古墳～平安時代の住居跡。中世土坑。
77	旭町19-1 他	駐車場建設	2,341	攪乱。B 軽石あり。
78	上中居町1668	都市計画区画整理事業	42.00	平地部分遺構なし。塚。
79	江木町高崎沖310-7	共同住宅建設	409.23	攪乱。
80	上巻岡町引間739	通信用鉄塔設置	100	削平地。道構、遺物なし。

81	菅谷町20-103	店舗	2,420	自然流路。
82	下豊岡町1271	土地分譲	1,643.35	縄文・弥生・奈良・平安時代の遺物、遺構あり。
83	福島町725-6他	共同住宅建築	1,364	土坑・溝等
84	倉賀野町二本木4239-3	宅地分譲地開発	2,243.98	攪乱。水路氾濫地。遺構なし。
85	南新波町福越357-3 他	送電線鉄塔建設	2,600	B P 下水田跡の可能性あり。B P 上に洪水層。
86	北新波町岡前399-1	送電線鉄塔建設	1,950	B P 下水田跡の可能性あり。
87	八幡原町北川久保453-1 他	土地売買	2,588.54	河川に向かう傾斜地。すでに攪乱。
88	南新波町道下225-2 他	送電線鉄塔建設	2,740	B 水田跡の可能性あり。B P 上に洪水層。
89	北新波町石神256-1 他	送電線鉄塔建設	2,740.00	洪水層。
90	北原町萩林174-1 他	共同住宅建築	1,205	古墳時代燐跡・奈良平安時代竪穴住居址等
91	下小湊町鍛冶坂外584の一部	共同住宅建築	597	自然傾斜地形。B 自然溝。
92	足門町森下664-1	宅地造成	1,527.00	自然流路。
93	行力町春名社面325-1 他	送電線鉄塔建設	2,700	溝・土坑等
94	桑間町殿田130-1 他	送電線鉄塔建設	2,160	B P 下水田跡。畦畔。
95	八幡町館793-2 他	共同住宅建築	1,336.60	古墳・平安・中世の遺構あり。
96	桑間町上皆免201-4	送電線鉄塔建設	1860	B P 下水田跡の可能性あり。
97	高岡町高根250 他	店舗建設	20,074	攪乱・B 水田の可能性あり。
98	下小湊町森1093-1	送電線鉄塔建設	1,650.00	洪水層。
99	箕郷町矢原900-1	宅地造成	1800	遺構未検出。
100	山名町南若宮281-1 他	宅地造成	11,400	遺構・遺物なし。河川地。
101	下小湊町中川原1770-2	送電線鉄塔建設	4,256	洪水層。
102	菊池町前田819-1	送電線鉄塔建設		B 水田跡の可能性あり。
103	上豊岡町引間885-1 他	送電線鉄塔建設	2,827	弥生後期竪穴住居址。
104	八幡町五輪616-1 他	分譲住宅	1,818	丘陵土砂の堆積地。遺構・遺物なし。
105	上豊岡町台577-2	送電線鉄塔建設	1,306	B P 下水田跡。畦畔。A P 処理坑。包含層。
106	緑町1-5-9	共同住宅	1,621	B 純層、F A 層なし。
107	乗附町地獄谷2727-2 他	送電線鉄塔建設	7,247	遺構なし。
108	乗附町飯山2691-2	送電線鉄塔建設	2,020.00	遺構なし。
109	箕郷町矢原桑戸1783 他	建売分譲住宅	1,724	遺構未検出。
110	乗附町兵右衛門坂1602-1 他	送電線鉄塔建設	1,327	遺構なし。
111	中豊岡町花見469-3	送電線鉄塔建設	2,175	A P 処理坑。
112	箕郷町生原金徳森445-1	共同住宅建築	1,362	平安時代竪穴住居址・土坑等。
113	上大瀬町坂サ類830-3 他	店舗	1,575	B 純層あり。F A 層なし。攪乱。
114	箕郷町矢原1181-1	電塔建設		攪乱。Y P あり。砂質。

高 崎 市



「暮らしのガイドブック」から改変

図 1



図2 平成19年度試験調査位置図



18. 並榎

- (1) 所在地 並榎町211-1 他
- (2) 調査期間 平成19年5月24日
- (3) 対象面積 239.04㎡
- (4) 調査内容 共同住宅建設
- (5) 経過・結果

本調査地は並榎町内に走る国道354号線と、通称ハナミズキ通りの始点；交差点（西小学校入口）より西へ約0.3kmの住宅地内にある。本調査地は烏川左岸台地にある。この左岸には遺跡が点在している。

近い所では北西約0.3kmに弥生中期後半の溝、古墳時代後期の住居跡を検出した上並榎屋敷前遺跡がある。約0.2km西に同時期の巾遺跡がある。狭い範囲に遺跡のある場所であるのでこれら含めた関連が注目される所である。このようなことから試掘調査の申請があった。かなり狭い地形の調査地である。トレンチは北西から南東方向に1本入れた。トレンチ土層は主にA混土層、B混土層、粗粒シルト、一部泥流で調査面まで7層である。遺構と考えられるものが東側で2ヶ所、西側で1ヶ所確認された。遺物の出土はB混土層内からも、B混土層より下層からも出土している。

土層、遺物から主に奈良・平安時代の遺構が考えられる。[遺物] 1、2：須恵器の埴形底部。糸切後調整。3：土師器の埴形底部、回転糸切。4：自然釉の大型甕下部部分。5：土師器甕口縁部。6：土師器碗、口縁部。内面などで、外面へら削り調整。他に肉厚の須恵器甕。肉薄の土師器甕、石製板碑が出土している。



図4 位置図



写1 東南から

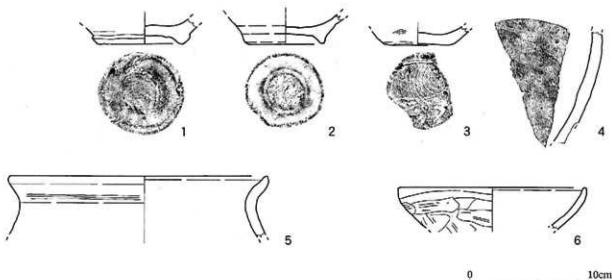


図5 トレンチ出土遺物図

21. 貝沢正天

- (1) 所在地 貝沢町正天1448-1 他
- (2) 調査期間 平成19年5月31日
- (3) 対象面積 402.64㎡
- (4) 開発内容 分譲地
- (5) 経過・結果

本調査地は市立東部小学校から西へ約0.15km、南側に走る県道・桜木通りまで約0.12kmの位置にある。周辺は住宅が密集しているが雑草と篠竹が全体に繁茂している土地であった。本調査地の東の井野川は蛇行しながら東南流している。この川を挟んで遺跡は点在している。周辺に限って言えば古墳時代の遺跡、遺構が比較的目立つ地域である。北西0.1kmで削平された古墳が確認されている。弥生土器もトレンチから出土していて、弥生時代の遺構を示唆させるものだった。関連する遺構が本調査地でも想像された。トレンチは東西に長いL形に掘削した。調査面までの土層は混土層で54cm以下からC混土層であった。土を動かした場所もありロームが表土層まで混じていたが、そのローム混じりの土層と違うローム混じりのC混土を覆土とした大小の溝を確認した。小溝の幅は20cmから40cmのものである。大溝は南側に延びていて、全体は分からないが古墳時代に関係する遺構が考えられる。小溝は人工的でなく自然溝である。



図6 位置図

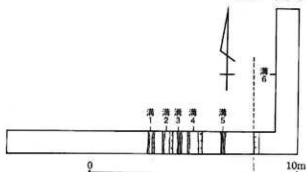


図7 トレンチ遺構



写2 C混土の大溝 南東から

26. 高岡東沖

- (1) 所在地 高岡町東沖4551 他
- (2) 調査期間 平成19年6月25～26日
- (3) 対象面積 3,701.81㎡
- (4) 開発内容 商業施設開発
- (5) 経過・結果

本調査地は市内の東に走る環状線にある高岡交番より東へ約0.35kmの距離の国道354号線道路南側に隣接した位置にある。現在の見た目の地形は平らであるが本調査地を挟んで北側と南側が標高値が高く、東に向かって緩やかに傾斜している。北0.65kmには一貫堀川が流れ、南側隣接地にも堀川が流れている。古くは低地な場所であったと考えられる。本調査地の周辺の遺跡は平成7年に道路挟んで西側に高岡東沖Ⅱ遺跡として平安時代の水田跡を発掘調査をしている。ここでの水田跡の特徴は条里区画を示す磁北に従う畦が検出されなかったことである。原因は上のべた地形に由来するものと考えられる。本調査地は上の遺跡の東にあり、地続きである。地中は前施設での破壊は考えられたが遺構の確認は必要であった。トレンチは南北方向に4本入れた。図のように各トレンチにB水田となる畦を検出した。畦の検出面までの深さとも少し深いようである。ここでも地形が東傾斜であることが分かる。下層では遺構が認められなかった。

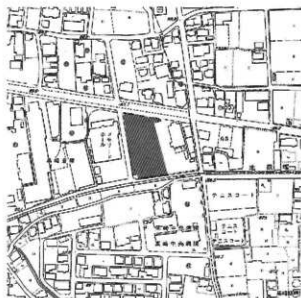


図8 位置図

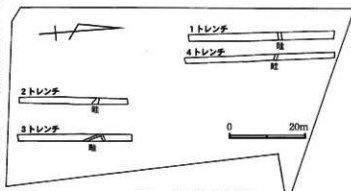


図9 トレンチ位置図



写3 3トレンチB下 北から

31. 上滝

- (1) 所在地 上滝町557-1 他
- (2) 調査期間 平成19年7月5日
- (3) 対象面積 2,221㎡
- (4) 開発内容 店舗建設
- (5) 経過・結果

本調査地は本町内に走る高速道・関越自動車道と北関東自動車道の交差点の北側約0.1kmの北関東自動車道西側に平行に走る道路西側隣接地にある。

周辺の遺跡：本調査地北0.1kmにB、F A水田跡を調査した上滝榎町北Ⅱ遺跡。上滝榎町北Ⅱ遺跡から北へ約0.1kmにはB、F A、C下の各水田跡を検出した上滝榎町北遺跡がある。東南には約0.4kmにもB、F A水田跡を調査した上滝五反畑遺跡がある。本調査地においても上記遺構が考えられるものであった。

結果：現水田面から下へ約95cmの位置からF A洪水土層があり、それに覆われた畦を確認した。畦の間隔はおよそ1mが測れるところからF A水田跡とされる。B水田については表土面下45cmに純層があったがトレンチ中ほどから北は消えている。B下の畦は確認できなかった。上滝榎町北Ⅱ遺跡のBの堆積は1cmぐらいと報告されていて、畦は検出されなかったもので同じような環境であったと推察される。2トレンチでは現水田下は泥流土層である。微高地状なので、上滝榎町遺跡での居館地の範囲に入るかもしれない。



図10 位置図

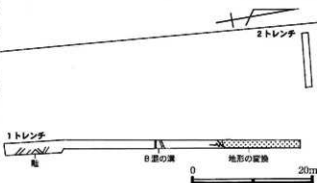


図11 トレンチ位置図



写4 F A水陸 南から

32. 元島名

- (1) 所在地 元島名町新堀501-1 他
- (2) 調査期間 平成19年7月9日
- (3) 対象面積 2,314㎡
- (4) 開発内容 店舗建設
- (5) 経過・結果

本調査地は元島名町の町内を南北に走る地方道前橋長湊線の西側に隣接した土地で、西側約0.25kmには高速道・関越自動車道が走っている。以上の利便性から店舗地のターゲットに選ばれたと考えられる。

地形：調査地の地形は半分から東側は高く、西側はかなり低くてレベル差は1.4mある。また南側道路との差は0.8mあり、南西にも低くなっている。調査地を利用するには、これらの地形を平らにしなければならないであろう。元々は水田地域であるが、その中に中州のように細地も少し残っている場所もある。

結果：1トレンチは水田地であったことを示すように盛土は1m以上あった。盛土上面から約1.4m下に厚さ約10cmのBの純層を確認した。Bを除くと良好でないが畦が認められた。畦の粘質土層の下に褐色粘質土層がある。一般的に考えられるのは水田である。しかしFA水田とは考えにくい。トレンチの長さは23mあり、この時代の特徴ある畦が見られなかったからである。2トレンチは遺構なかった。



図12 位置図

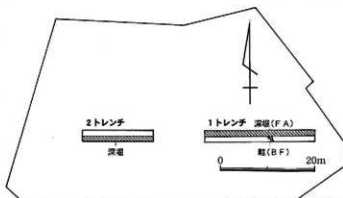


図13 トレンチ位置図



写5 1トレンチB下 南から

41. 中居岡東

- (1) 所在地 中居町岡東1360-1
- (2) 調査期間 平成19年7月31日
- (3) 対象面積 999㎡
- (4) 開発内容 共同住宅建設
- (5) 経過・結果

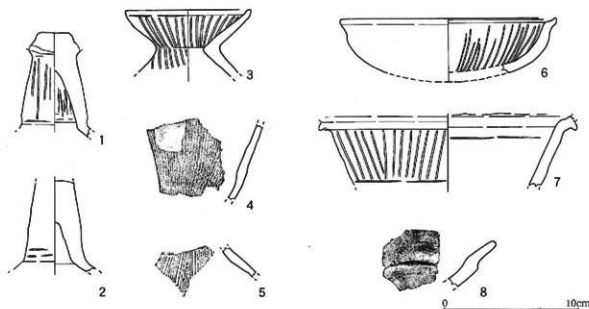
本調査地は上中居町内にある上中居児童公園から西へ約0.2km、国道354号線から南へ直線で約0.1kmの位置にある。周辺の遺跡は西0.5kmに高関村前Ⅱ遺跡、高関東沖・村前遺跡、高関村前Ⅲ遺跡がある。高関村前Ⅱ遺跡では中近世の集落跡、高関東沖・村前遺跡では平安時代の水田跡、古墳時代の畠跡が、高関村前Ⅲ遺跡では弥生中期後半、古墳時代の竪穴住居の調査をしている。高関村前Ⅲ遺跡から南に約0.2kmに上中居西屋敷Ⅱ遺跡がある。そこでは中近世の館跡を示す溝・井戸・土坑が調査された。西南約0.55kmには上中居荒神遺跡がB水田を調査している。東南約0.35kmの中居町一町目の試掘調査では古墳時代の住居跡を確認している。0.1km北ではかなりの発掘成果をもって調査を終了している。このように本調査地の周辺は遺跡の密集地と言ってよい地域である。トレンチ内は湧水が多く遺構確認は難しかったが調査面において土器を出土し、現地面より80cm前後の深さにおいて、遺構を垣間見ることが出来た。出土遺物から調査地は古墳時代の遺構に集中している。



図14 位置図



写6 出土土器No.1



写15 トレンチ出土遺物図

57. 山名北若宮

- (1) 所在地 山名町北若宮206-1 他
- (2) 調査期間 平成19年10月3日
- (3) 対象面積 7,457㎡
- (4) 開発内容 砂利採取
- (5) 経過・結果

本調査地は市立山名小学校から東に直線で約0.4kmの位置にある。対象地およびその周辺は水田域である。今回対象地の東隣接地の水田地は過去に試掘調査を行っている。結果は現表土層の水田土壌以下は砂礫層であった。今回の開発内容は明確なもので事前に調査している。試掘調査のトレンチは東西南北の場所に計7ヶ所入れた。トレンチ内は砂礫層であったが5トレンチにおいて、表土から下約60cmにB混土細砂質より下層で平安時代の遺構と土器片が出土した。



図16 位置図

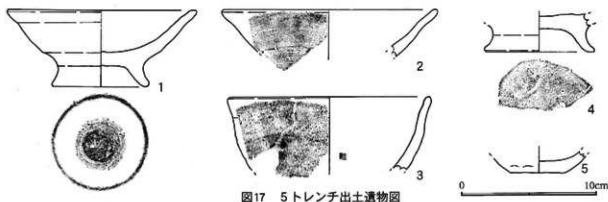


図17 5トレンチ出土遺物図



写7 5トレンチ調査面 北から

60. 倉賀野町下新堀

- (1) 所在地 倉賀野町下新堀
- (2) 調査期間 平成19年10月15日～26日
- (3) 対象面積 約22,000㎡
- (4) 開発内容 土地区画整理
- (5) 経過・結果

本調査地は県道和田田中・倉賀野線（旧国道17号）の北側、側道北から北側にある住宅街の用水路までの距離約0.18kmまでが調査対象範囲の土地である。調査地の南側が約南西約0.15kmに浅間山古墳がある。旧国道17号線を挟んで北側は低地で水田地で南側は乾燥地の畑地である。現在は北側、南側ともに住宅・店舗が広がっている。遺跡の検出状況において北側は水田遺跡、南側では住居跡等の傾向がみられる。部分的な微高地では逆の状況にある。この道路沿線は遺構の密度が高い地帯である。述べたように現在の道路左右は店舗で埋まっている。奥の方に入ると住宅地が広がっている。調査対象地はそれらに取り残されたような空間である。将来を考え、それらの活用として、土地を整理し、区画する事業を実施することになった。対象地は事前に開発関係者と立会い、耕作中の場所を除き、図19のような位置にトレンチを入れた。対象地の現況は盛土された駐車場跡、店舗跡、休耕地、畑、水田等である。トレンチは10ヵ所実施した。

紙面の都合で詳細は述べられないがB純層の無いトレンチは1,2,3で、それ以外はあった。そしてB下に畦を確認したトレンチは6,7トレンチである。トレンチの各土層は最下層に褐色～にぶい黄橙色の泥流あるいは灰褐色シルトがあり、次に灰褐色粘質土、黒色粘質土、B純層である。氾濫の影響を受けた土地である。

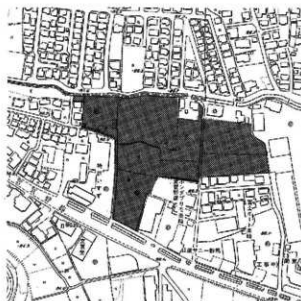


図18 位置図



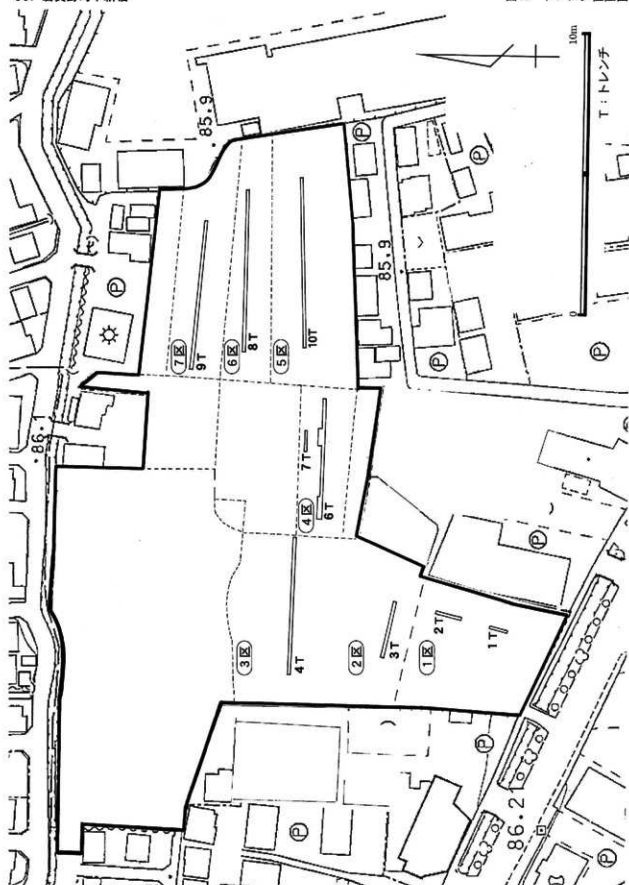
写8 4区調査前風景 西から



写9 6トレンチ 西から



写10 7トレンチ 南から



64. 剣崎六万坊

- (1) 所在地 剣崎町六万坊380-3 他
- (2) 調査期間 平成19年10月23日
- (3) 対象面積 777.9㎡
- (4) 開発内容 共同住宅の建設
- (5) 経過・結果

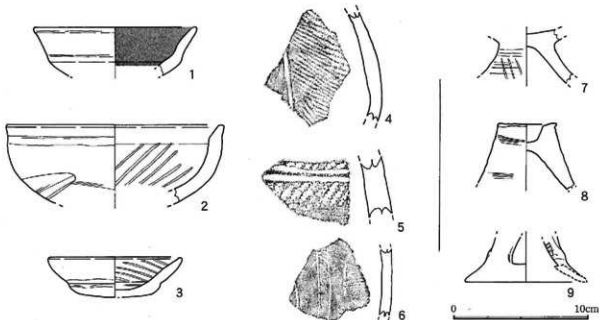
本調査地は本市役所から北西の地、八幡台地にある。台地の方向は北側の烏川と南側の碓水川に挟まれ東南に向いている。調査地の東にあって南北方向に走る県道群馬八幡停車場・剣崎線までの距離は約0.26km、調査地とその道路までの標高差は7～8mで道路側は低い状態である。標高の低い東側約0.1kmでの試験調査ではB水田の畦を検出している。標高の高い北西0.17kmの台地では古墳時代の竪穴住居跡を調査した剣崎六万坊遺跡がある。北北西は約0.4kmには縄文前



図20 位置図

・中・後期住居跡、平安時代住居跡を調査した剣崎稲荷塚遺跡がある。以上の2遺跡のほか本調査地の台地上には縄文時代から古墳時代、中世まで多くの遺跡があり、調査されている。市にとって貴重な遺跡地域である。本調査地は前にアパートが建っていたが元は畠地であったと思われる。今回、古いアパートを取り壊して新しいマンションを建て替えることになった。アパート跡の更地面には散らばった土器片が目についた。かなりの遺跡包蔵地であることを想像させた。トレンチは建物建設予定地に南北方向に入れた。狭い面積であったが遺物はかなりあった。調査確認面までの深さは60～70cmである。土層は攪乱された表土層とローム粒が混じった黒色土層の2層である。遺構はトレンチ中はどこから北側に古墳時代の土坑が、住居にも考えられるが狭すぎてはっきりしない。南側に弥生時代に考えられる周溝部分を確認した。土器片はトレンチ内、表土面からも採取された。

〔遺物〕 述べたように表土面にもトレンチ掘削中においても土器は出土した。出土遺物の種類を見ると縄文式土器、弥生土器、古墳時代の土器の3種類に分けられる。縄文土器は中期から後期、加曽利、勝坂、称名寺式が考えられる。弥生土器は後期、古墳時代の土器は5世紀後半から6世紀の特徴を示している。石器も出土している。



写21 トレンチ出土遺物

64. 剣崎六万坊

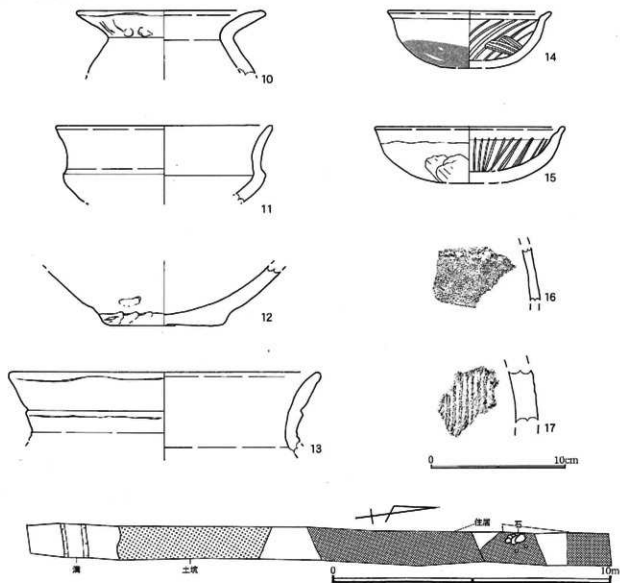
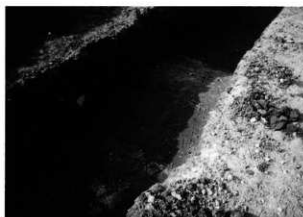


図22 トレンチ遺構・出土遺物図



写11 トレンチ北部分 東南から



写12 溝 東南から

65. 江木南土井

- (1) 所在地 江木町南土井1367の一部
- (2) 調査期間 平成19年10月29日
- (3) 対象面積 764㎡
- (4) 開発内容 共同住宅の建設
- (5) 経過・結果

本調査地は北に走る地方道高崎・駒形線まで約0.3km、市街東側に廻る環状線から約0.35kmの場所に位置している。北東約0.3kmには一貫堀川が流れ、また一貫堀川の支流が西側約50mにある。元々は水田地域であったであろうが環状線の建設、周辺の道路整備、土地も区画されて、現在は店舗、住宅で埋まりつつある。今回の土地にはマンションを建設するという事である。本調査地周辺の過去の文化財調査については、0.5km範囲にB水田、一部FA水田を数ヶ所調査している。今回の調査対象地の北側隣接地は平成16年に試掘調査をしている。結果はB水田とその畦畔を検出している。南東方向に延びる大畦畔であった。その大畦畔が本調査地においても確認されるかどうか気になる所であった。当日の調査地は2,3日前の台風20号の雨の影響で土壌は柔らかかった。トレンチは都合によりL形になった。現水田面から53~66cmの深さの位置に約10cmの厚さのB軽石純層が認められた。その純層直下に5条の畦を確認した。上にのべた北側隣接地に対応する畦はだいぶ輪郭がくずれた低い畦になっているが、畦4が考えられた。上記二つの川の氾濫の影響が考えられる水田跡である。

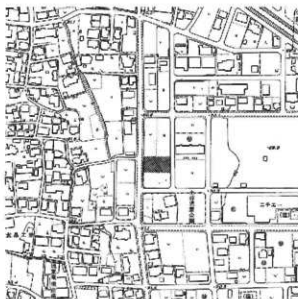


図23 位置図



写13 トレンチ南畦 南から



図24 トレンチ南土層断面図

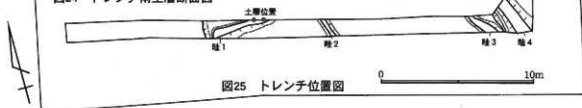


図25 トレンチ位置図

66. 高松町

- (1) 所在地 高松町5-28
- (2) 調査期間 平成19年10月30日～
11月20日
- (3) 対象面積 12,936.53㎡
- (4) 開発内容 医療保険センター・図書館
- (5) 経過・結果

本調査地は高松市役所からおおよそ北に位置し、地方道高崎・榛名線の西側に接する場所である。本調査地の南道路側に現在高崎福祉会館や高崎地域医療センターがある。北側隣接には市立高松中学校がある。

〔調査地の自然環境〕調査地は前橋台地と呼ばれる台地上にある。前橋台地は浅間山の山体崩壊に起源をもつ前橋泥流の堆積面にあたり、泥流の発生年代は2万4千年前とされていたが泥流上下に板鼻軽石が認められたことにより現在は約2万年前とされている。泥流

は広く前橋・高崎市内を覆いつくしている。泥流下は厚く砂礫層が続いている。本調査地の西約0.4kmは烏川が南東に向かって流れている。海抜は97.3mから97.5mの範囲にある。〔周辺の遺跡〕代表的なものと同じ左岸にある高崎城関連の遺跡がある。現在まで17次遺跡まで調査報告されている。報告の内容を概略的にいえば縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世の各時代の発掘成果を報告されている。本調査地も高崎城内にあり近世遺構はもちろん、上にのべた各時代の遺構が十分発見されるであろうことが予測される。〔結果・成果〕調査対象地に図27トレンチ位置の如く11トレンチを実施した。調査地はセメントで舗装された貸駐車場として利用していた。その前は事務所・倉庫の建物があった場所である。舗装された駐車場の土層は攪乱された場所であることが想定された。結果はその通りであった。11のトレンチ全部に攪乱があった。前の建物基礎が広範囲にシッカリ残されていた。前には高崎の連隊あるいは、それより少し後の時期の建物によって破壊されていた。ここでの各トレンチの調査報告は攪乱された台間に見えた遺構や出土遺物の見解を述べている。想定される本調査のために試掘調査での掘削の深さは最小限にした。1トレンチ：調査面までの深さは43～48cm。土層はセメント舗装・碎石層、下層はB層土層。B層土層より上層は動かされたり、無くなったたりしている。トレンチ西寄りで古墳時代から平安時代の住居跡、中世のピットと考えられるものを確認した。トレンチ中間あたりから西側において周溝が3ヶ所見つかった。土層観察から弥生時代後期の遺構とおもわれる。東寄りには幅6mと2mの2本の溝を確認した。2トレンチ：調査面までの深さは35～40cm。前建物跡の障害で遺構は分かりにくいのが土質は遺構を示している。江戸期皿、土製品出土。3トレンチ：調査面までの深さは72～86cm。土管、鉄管が南北方向に5ヶ所あった。鉄管は明治期か。江戸期茶碗、連隊関係の鉄片・葉きょう出土。4トレンチ：攪乱範囲広い。平安時代の住居跡が考えられる土面と甕片出土。埴輪片、時期不明の鉄製品出土。5トレンチ：調査面までの深さは94～117cm。現代建物基礎跡を剥がすと遺構確認面である。中間から西寄りに土坑ないし住居跡が考えられる。埴輪片、土師器片が出土した。6トレンチ：調査面までの深さは87～118cm。平安時代の遺構・遺物出土。中間に江戸期の井戸跡とおもわれる。江戸・明治の磁器やたんすの把手など出土。7トレンチ：調査面までの深さは79～112cm。西半分は攪乱。江戸時代の焦土。奈良・平安の土師器、須恵器、江戸・明治の磁器等出土。8トレンチ：60％以上攪乱。調査面までの深さは90～94cm。土壘とおもわれる版築状の土層がみられる。硯、瓦、磁器片の出土遺物は明治期が考えられる。9トレンチ：80％以上攪乱。調査面までの深さは約96cm。自然の小山でもあったか、ロームが見える。黒色土部分ある。平安時代土器出土。10トレンチ：調査面までの深さは85～92cm。土管、現代建物跡があるが、それらの間の調査面は土質からすべて遺構があると考えられる。西側にお

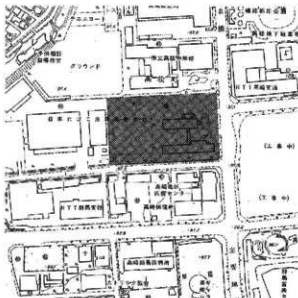
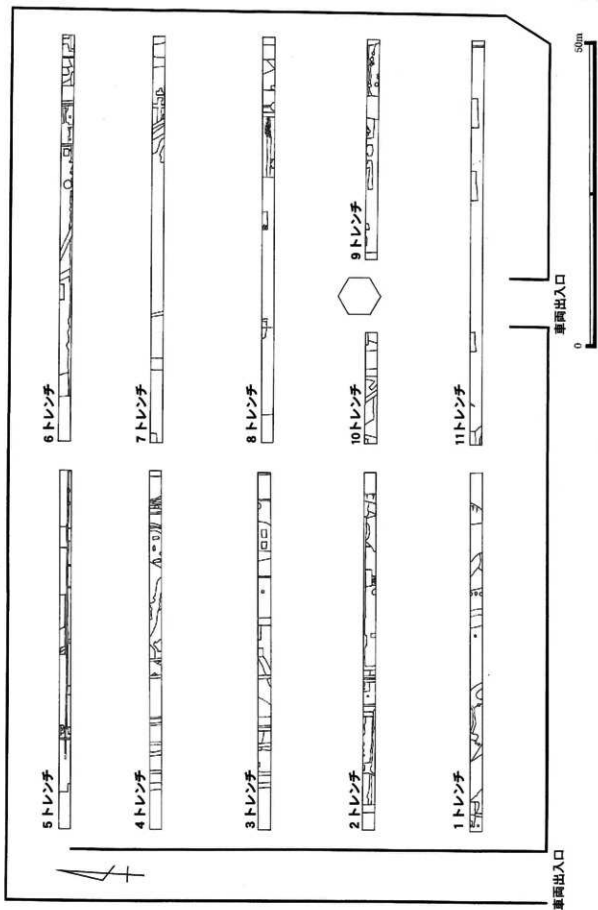


図26 位置図



66. 高松町



写14 1 トレンチ全景 東から

いて浅間B型石畳より下層から羽釜片が出土した。他に古墳時代の埴片や土器が出土している。このトレンチは古墳時代、平安時代の遺構が考えられる。11トレンチ：ほとんど掘乱。調査面までの深さは47～75cm。9トレンチの黄色い土と同じと考えられるロームが東端から西へ約10mまで広がっている。西端に土塁を思わせる土層が見られた。

〔遺物〕1：時期不明の煙管、2：平安時代の甕、3：磁器製碗蓋、連隊での使用された軍用品とおもわれる。4、5は9世紀前後の甕。6：近世のすり鉢、7：奈良時代の須恵器鉢、8：羽釜、他のトレンチからも数個出土している。9、10：埴輪片付近に古墳が考えられる。残りは整理中である。

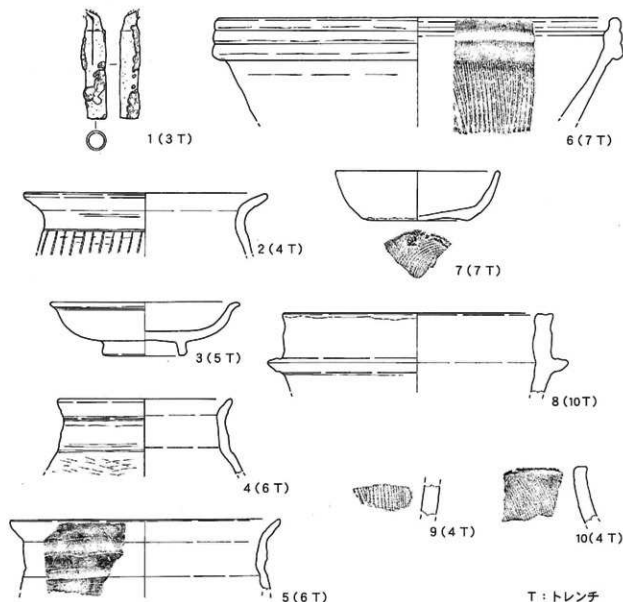


図28 トレンチ出土遺物

76. 下佐野一本木

- (1) 所在地 下佐野町一本木679-1 他
- (2) 調査期間 平成19年11月27日
- (3) 対象面積 1,205.29㎡
- (4) 開発内容 建売分譲住宅
- (5) 経過・結果

本調査地の東にある地方道佐野1本松通り線までは約0.15km。西側にはJ R 上越・長野新幹線が走っている。約50mの距離にある。本調査地は市の遺跡分布地図では遺跡包蔵地域内にある。西側に走る新幹線下は下佐野遺跡として、縄文・弥生・古墳時代から平安・中世・近世に至るまで各時代の種類の遺構が調査された。過去の試掘調査において0.5km範囲内では上記一本松通りを境に東側は水田跡、西側は住居跡、土坑、古墳などの遺構が確認されている。道路を境に地形が変化していると考えられる。対象地は畑で、ハウスでの栽培をおこなっていたというので擾乱が予想された。トレンチは道路予定部分を実施した。調査面は混土層で分かりにくい土層をしている。B混土の土坑内、砂混じりシルト内に平安時代の土器片が。B混土層より下層のローム粒混じる黒色土面において、古墳時代と考えられる住居跡が認められた。またそれを含めて平安時代の住居数軒、ないし土坑がみられた。トレンチ内には埴輪片もあり、周辺の遺跡の関係から近くに古墳の可能性がある。平安時代の土師器、中世土器、縄文遺構も土器片の出土から考えられた。



図29 位置図

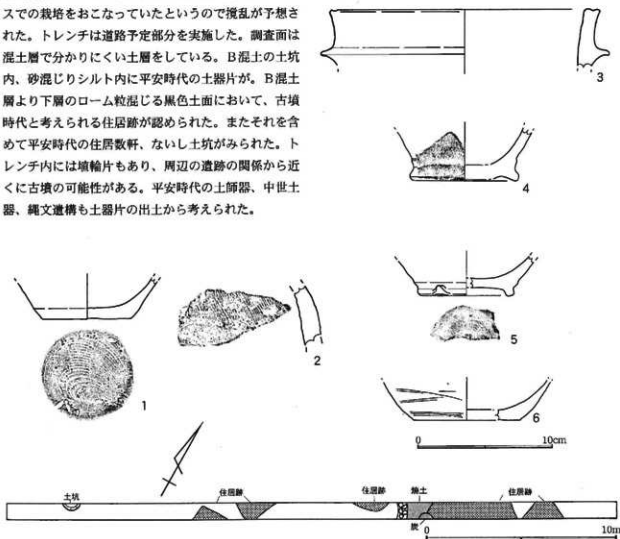


図30 トレンチ遺構・出土遺物図

82. 下豊岡

- (1) 所在地 下豊岡町1271
- (2) 調査期間 平成19年12月26日
- (3) 対象面積 1,643.35㎡
- (4) 開発内容 土地分譲
- (5) 経過・結果

本調査地は東側に下豊岡町内に走る国道406号線から直線で約0.1kmにあり、北側にはJR信越線の南側に接する場所に位置する。地形的には若田丘陵・台地が終わる舌状の東端に近い台地上にある。

〔周辺の遺跡〕本調査地南にある市営住宅建設に伴い平成6年と平成8年に発掘調査をおこなった豊岡後原遺跡がある。遺跡の成果は縄文・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代の各時代の遺構、遺物を多く出土した。北西約1.1kmには引間遺跡がある。古墳時代の住居跡、

古墳、溝、土坑、奈良・平安時代の住居跡、畑跡、井戸等が調査されている。古墳から「和同開珎」が発見されている。〔結果〕調査地の現況は畑と休耕地の部分である。表土は軽石や火山灰が混じり、良く攪拌されてサラサラしている質感がある。トレンチは南北に長いL形。調査面までの深さは南北方向のトレンチは42～57cm、東西方向のトレンチは67～78cmである。上層はA混じり、下層は軽石、火山灰混じりである。南北方向のトレンチでは出土土器、土層から弥生・古墳時代、奈良・平安時代の遺構が考えられた。東西方向のトレンチでは中世、縄文時代の土坑を土器と共に確認した。これら結果は豊岡後原遺跡の関連と広がりが考えられる。



図31 位置図

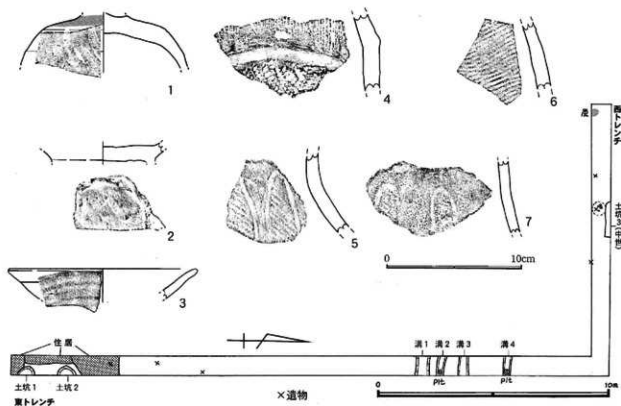


図32 トレンチ遺構・出土遺物図

15・54. 引間町

- (1) 所在地 高崎市引間町1078-1、1337-1
- (2) 調査期間 平成19年5月9日、9月18日
- (3) 対象面積 832.99㎡、569㎡
- (4) 開発内容 土地開発
- (5) 経過・結果

環境 相馬ヶ原原状地面西端近くの緩傾斜面に立地し、微視的には北300mの染谷川の自然堤防上で南に向けて下がる地形である。周辺は、大規模店舗・県道建設・区画整理事業等の関連で広範に調査されており、古墳時代後期以降の開発による集落址・耕作遺構等が広がっている。

調査方針 敷地内全域を対象に8m間隔で3本のトレンチを設定した。

基本層位 ほぼ全域で区画整理事業により盛土整地されており、それ以前の旧水田面は約50～60cm下である。

また南側2／3では、旧水田面の下部も土地の入れ替えが行われ、場所によってはローム面まで削平されている。

さらに、近年の擾乱により遺構が残る部分は限られる(図34のA・C・D・F地点及び東側)が、遺構確認面はA-S-C-P粒を含む黒色土面で共通し、A-S-C-Pの純層は認めない。

トレンチの状況 1T 北側では土器類を多く出土する面があるが、擾乱により範囲は明確ではない。

2Tでも確認されるため、連続する溝状の遺構が推定される。C地点では、北東隅で直に折れる竪穴住居址状の掘り込み(SI1)とPitが確認される。

2T 北側の溝状遺構のみである。(SD1)

3T 中央付近は深さ1mでローム面まで削平されるが、円形の土抗状の遺構(SK1)と溝状遺構(SD2)が認められる。他に北側には、Pitがある。

4T 北側1／3程が確認面を残す。東の2Tに延びる溝(SD2)とPitを検出する。遺構確認面であるC黒を覆うFA混土茶褐色土は、遺物包含層、7Cから平安時代の土器を含む。

5T SD2及びPit群の検出状態は1Tと同様である。南側で竪穴住居址の可能性のある直に折れる掘り込みを検出(SI2)。

6T Pitを検出。

遺構の傾向 全体に2度以上の土地の改変を受けており、保存状態は不良である。ただ、部分的に遺構が残っているのと、南及び西の隣接地では集落跡が調査されている状況から類推すれば、密度は薄いながら集落域に入ると判断する。

保存の所見 具体的な開発計画が確定した段階での保存協議が必要である。



図33 引間町位置図

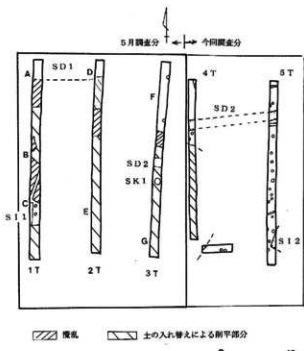


図34 引間町トレンチ配置・遺構分布図

67. 貝沢町西沖遺跡

- (1) 所在地 高崎市貝沢町西沖731-1,-2,738-1
- (2) 調査期間 平成19年10月30日
- (3) 対象面積 2,743.37㎡
- (4) 開発内容 駐車場建設
- (5) 経過・結果

環境 井野川南岸の後背湿地に立地する。北側自然堤防上には、各期の集落跡が拡がり、北の天王山古墳・東の五霊神社古墳の前方後円墳を始め大型円墳の万日堂古墳等の古墳時代後期の古墳群が展開する。同じ後背湿地内では、平安時代浅間山B軽石層下の水田遺構の拡がり確認される。

調査方針 当面は、仮駐車場で基礎工事を施さない工事計画とのことであり、遺構の大体を把握するために、南北方向3本、東西方向2本のトレンチを設定した。

基本層位 浅間山B軽石層（BP）が2～10cmと薄いながら全面的に確認される。西側では表土下20cm下と浅いが、大部分は40cm程下である。一部南側は一段高いが、後世の盛土によるもので自然地形ではなく70cm下にBPが確認される。造成工事は、道路に取り付くこの南側の高い部分に合わせられ大部分盛土が成される。工事後のBP面は50～70cm下に成ると想定される。BP下は、水田耕作に伴うマンガン沈着層を挟んで黒色土があり、その下面の粘質灰色土まで確認した。

トレンチの状況 1T 各トレンチ共BP面での遺構確認を行うが、BP層が薄いこともあり畦畔の状態は不明瞭である。それでも各トレンチ共1～2ヶ所で確認され水田面の拡がり確認した。段をもつ部分があり、接して水口下と推定されるの窪み（SK1）を検出。

2T 西側で僅かな高まりの畦畔を、1ヶ所確認。

3T 南側で段状の畦畔と、併走する小溝（SD1）を検出。

4T 方向を異にする2ヶ所の畦畔を検出。東側で交わると推定される。

5T 4Tから続く畦畔と、BP層上部から掘り込まれた2条の小溝を検出。

保存の所見 全面的に平安時代の水田面が拡がるが、当面は盛土による造成と掘削による基礎工事を伴わない工事計画とのことであり（代理人の事前説明）遺構面は保全される予定。駅前の立地のため近い将来の再開発時に再協議が必要と考慮される。



図35 貝沢町西沖遺跡位置図

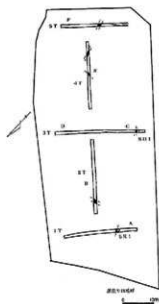


図36 西沖遺跡トレンチ位置図



写15 BP層下畦畔の状態

70. 栄町

- (1) 所在地 高崎市栄町53,54,55,57
- (2) 調査期間 平成19年11月6日
- (3) 対象面積 1,987.56㎡
- (4) 開発内容 事務所ビル建設
- (5) 経過・結果

環境 高崎城下町が載る烏川段丘涯上の微高地と、東の上中居地区に続く微高地に挟まれた後背湿地に立地する。

周辺の調査により平安時代浅間山B軽石層下の水田遺構の拡がりが確認される。

調査方針 建物予定地内に2本のトレンチを設定した。駐車場部分は、ほぼ現状の利用のため調査は行なわない。

基本層位 全体に35～20cmの盛土に覆われる。

盛土下は、場所によりシルトと砂礫からなる洪水層が覆い、更に下には粘質黒色土が形成される。この黒色土は江戸時代後期の遺構面で、南側の2Tでは浅間山A軽石層（AP）を埋土処理した土坑状の遺構が拡がる。現地表から50cm下である。黒色土下と浅間山B軽石層（BP）の間には、3面から成る洪水層が覆い、特に最下層の下面ではBP混土の黒色土（B黒）が形成されることから、今後遺構面として注意しなければならぬ。

BPは、2～8cmと薄いながら全面的に確認され現地表から80～110cm下である。

トレンチの状況 1T 1・2T共江戸時代後期面と平安時代後期面の2面で確認を行うが、BP下の畦畔等の明確な水田遺構は検出されない。江戸期遺構面とBP間の洪水層中の一部で北西から南東への流れの方向が解る。

2T 浅間山A軽石層（AP）を埋土処理した土坑状の遺構が拡がる。西側では、連続的に埋め立てた列を検出。AP復旧土坑を切り込み、最上部の洪水よりも古い肥溜と推定される円形土坑を確認。

保存の所見 明確な遺構は、江戸時代の浅間山A軽石層（AP）を埋土処理した遺構のみである。予定建物の基礎深によっては、保存協議が必要である。

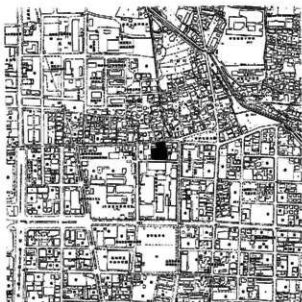


図37 栄町位置図

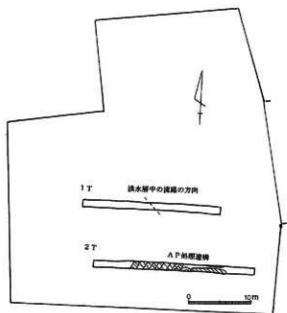


図38 栄町トレンチ・遺構配置図



写16 A軽石層処理遺構

71. 下之城遺跡

- (1) 所在地 高崎市下之城町53,57-1
- (2) 調査期間 平成19年11月8日
- (3) 対象面積 2,411m²
- (4) 開発内容 集合住宅建設
- (5) 経過・結果

環境 鳥川左岸の後背湿地に立地する。西側自然堤防上の、竜見町・城南小校庭遺跡や、北の微高地上に立地する競馬場遺跡など弥生中期に溯る初期の農耕集落が点在する。本地点周辺は、水田耕作想定地であるが、洪水等の影響が大きいため埋没した微高地も予測され、過去の調査においても弥生～古墳前期の遺構が検出されている。西に隣接する五貫堀川は、長野堰より分水され、桑里地割りに沿い南流する。

調査方針 建物予定地内に3本のトレンチを設定した。

駐車場部分は、建物部分で遺構面が浅い場合に調査を予定したが、全体に50～60cmの盛土が予定されるため、遺構に影響がないと判断し調査を行っていない。

基本層位 低地で川に近いめ、複雑な土層堆積を見せる。低地のため浅間山B軽石層（BP）の存在を予測したが、純層としては確認できずBP混土の黒色土（B黒）が確認される。B黒は、北の1・2Tでは現耕作土直下であるが、3Tではその間にシルトや砂礫からなる洪水層が入る。B黒下は、北の1Tと2・3Tでは大きく層位が異なる。2Tの西側大部分と3Tでは、層厚15～20cmの黄褐色洪水層下にC軽石を含む黒色土（C黒）が確認され遺構確認面となる。1Tと2T東端では、流路中の堆積と想定されるシルトと砂礫・粘土がモザイク状に複雑に変化する。流れの方向は北西から南東である。

トレンチの状況 1T トレンチ全体が、流路に含まれると推定される。流路の西側立ち上がりは、2T東端であるが、東側は不明である。

2T 東側でC黒と流路を切り込む遺構（SK1）を検出。幅220cmほどで南北に延びる。検出面で正立した壺をはじめとした土器類が露出する。古墳時代前期の土器が多いが、弥生中期末～後期初頭の破片を含む。

3T C黒面で土器片が出土。2基の遺構（SK2・3）を確認。古墳時代前期か。 図40 下之城遺跡トレンチ

保存の所見 遺跡の性態は不明ながら低地部での、弥生～古墳期の遺構の検出は注意される。今後、地盤調査の後に造成計画・建物設計が示される予定であり、遺構確認面は比較的深い、予定建物の基礎深によっては、本調査が必要と思われる。保存協議が必要である。



写17 遺構確認状態



図39 下之城遺跡位置図

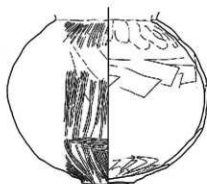
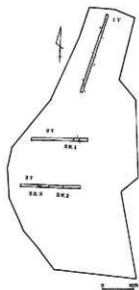


図41 SK1 出土壺形土器 (S=1/4)

(参考資料) 下之城 | 遺跡

今回の調査地点から東800mで本遺跡と同様に、低地内の微高地に立地する遺跡の調査が1976年1月に高崎市教育委員会(担当 鬼形芳夫・神戸聖昭)により行われている。部分的なトレンチ調査であるが古墳時代前期の遺構が検出されており、ここに参考資料として提示する。

調査されたのは円形の土坑である。一部破壊を受けるが、長辺100cm前後、短辺82cm、深さ70cmで基底部はローム層を掘り下げている。冬季の調査であったが、湧水層に達しており、井戸の可能性が高い。土坑内覆土の中心から低位にかけて、木片とともに11個体ほどの古式土師器が出土する。

1の平底甕は、口径・底径の割に扁平な胴部の特徴から、東京湾沿岸部との関わりで理解する。5個体分のS字状口縁台付甕はいずれも破片で、小型の2をのぞくと胴上半部から上を欠くための時期的な情報にかける。大型の甕もS字甕同様で情報の乏しい類別の資料である。7の小型丸底甕と8の小型器台の存在と、有段の器受部の形態及び、消極的であるが小型S字甕の肩部横線の欠如等から、古墳時代前期中葉の土器群と位置づく。

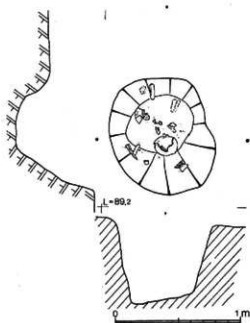


図42 土坑出土状態

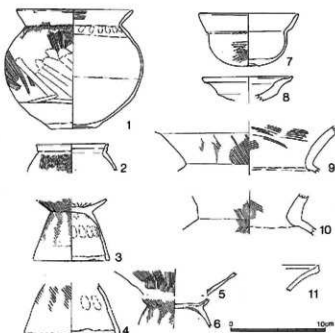


図43 土坑出土遺物

番号	器種	口径	最大径	底径	高さ	形態の特徴	特 徴	備 考
図41	甕	10.7	21.2	5.4	17.3	やや下膨れの球形胴。平底。	斜めヘラナデ後、腰・斜めヘラミガキ。胴下部一部に横ヘラミガキ。	胴部完全。

下之城遺跡出土土器観察表

番号	器種	口径	最大径	底径	高さ	形態の特徴	特 徴	備 考
図43-1	平底甕	12.5	14.5	4.7	12.4	扁平な胴部。大きめの底径。	口縁部横ナデ。胴部斜めヘラミガキ。胴部横ヘラミガキ。	ほぼ完全。上総系。
図43-2	小型S字甕	7.6	—	—	(3.4)	小さな口縁部は不明瞭な段をもつ。口唇部は丸く仕上げ。	口縁部横ナデ。胴部横ヘラミガキ。	口縁部。胴上半。
図43-3~6	S字甕	—	—	—	—	台端部内側に折り返し。	口縁部横ナデ。胴部横ヘラミガキ。	台部。胴下半。
図43-7	小型丸底甕	10.5	(8.2)	2.4	5.7	口縁部横ナデ。胴部横ヘラミガキ。	口縁部横ナデ。胴部横ヘラミガキ。	ほぼ完全。北陸系。
図43-8	小型器台	9.3	—	—	—	有段の器受部。口唇部つまみ上げ。	口縁部横ナデ。	器受部のみ。
9-10	大型甕	—	—	—	—	外反する口縁部。	斜めヘラミガキ。	胴部。
図43-11	甕	—	—	—	—	外反する口縁部。口唇部横ナデ。	口縁部横ナデ。	口縁上部。伊勢系。

下之城 | 遺跡出土土器観察表

72. 浜川町餅井戸遺跡

- (1) 所在地 高崎市浜川町字餅井戸1934-1、-2
- (2) 調査期間 平成19年11月13日
- (3) 対象面積 2,034㎡
- (4) 開発内容 露天資材置場建設
- (5) 経過・結果

環境 井野川西岸の後背湿地に立地する。周辺は長野新幹線・運動公園・学校建設・土地改良等で広範に調査されており、特に古墳時代から平安時代の4面の耕作地の広がりは、全国的にも注目されている遺跡群である。

西に隣接する新幹線関連の餅井戸遺跡でも3面の水田址が確認されている。

調査方針 当面は、深く基礎工事を施さない工事計画とのことであり、遺構の大枠を把握するために、土地の形状に合わせ2本のトレンチを設定した。

基本層位 全体に土地改良工事により現地表から40cmまで整地されている。整地土下は、褐色の洪水層が覆うが、地形的に高い北側では削平されている。その下には、浅間山B軽石層（BP）が15～5cmと良好に遺存する。BPまでの深さは西側で70cm、東側で40cmと差がある。当面、掘削を伴わない工事計画とのことであり、それ以下は未調査。

トレンチの状況 1T・2T 両トレンチともBP、下の平安時代水田面が広がる。検出遺構は、畦畔のみであるが、良好に残る。確認される範囲では、ほぼ東西・南北に方向を揃えるが、緩傾斜面であるため南北方向の畦畔の間隔は10m程である。また、一部の高い（北側）畦畔は、ほとんど盛り上がり段状を呈する。また、BP上部から掘り込まれる溝状の遺構も検出する。

保存の所見 全面的に平安時代の水田面が広がるが、当面は盛土による造成と掘削による基礎工事を伴わない工事計画とのことであり（代理人の事前説明）遺構面は保全される予定。ただし、近い将来再開発を考慮されているようであり、遺跡の存在を周知徹底が必要と考慮される。

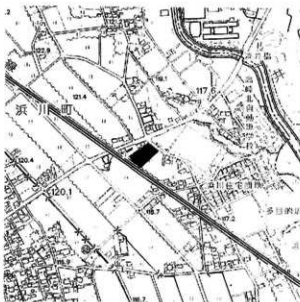


図44 浜川町餅井戸遺跡位置図

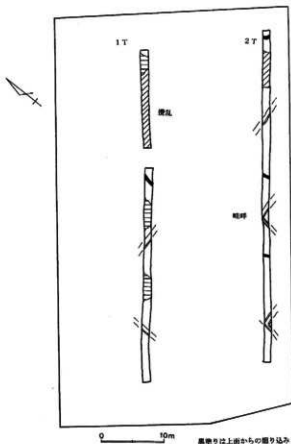


図45 餅井戸遺跡トレンチ遺構分布図

73. 菅谷町村東遺跡

- (1) 所在地 高崎市菅谷町村東103,728,731,
732,842,843,844,845,855
- (2) 調査期間 平成19年11月19日～12月21日
- (3) 対象面積 57,524.51㎡
- (4) 開発内容 工場跡地再開発
- (5) 経過・結果

地形的環境 相馬ヶ原扇状地の末端近くの緩傾斜面に立地する。箕輪城近辺に発する井野川は、扇状地の扇端部を東南流し、扇状地面を開析して南流する多くの小河川を合流させる。当該地の西1kmの天王川や東400mの正観寺川もそれらの1つであり、南あるいは東南方向へ流れ下る。

周辺は、古く戦国時代の菅谷城跡の造営や、戦時中の旧陸軍飛行場の造成により平坦化されているため、微地形が読み取りづらいが、微高地である扇状地面とそれを開析する南から東南方向の小河川や谷が想定される。

歴史的環境 当該地周辺は、区画整理事業や住宅建設・道路建設等の関連で広範に調査され、特に古墳時代後期以降の開発により集落址・耕作遺構等が拡がる。奈良・平安時代には、東2kmに推定される国府や北1.5kmの国分寺など、古代上野国の中核地であり、遺跡の密度が高い地域である。

さらに、南300m程には、古代の幹線道路である「東山道」遺構が調査されており、信濃国境の碓氷峠から、東2kmに推定されている上野国府に向かっている。

調査方針 申請された4ヶ所の調査地点を、便宜的に1～4区とし、北東の駐車場部分を1区、工場ゲート東を2区、工場内南側を3区、北東のバス駐車場部分を4区とする。

遺構の分布状態を網羅するため、15～20程度間隔を基本とし、敷地に合わせて南北あるいは東西方向を基本とする。

想定される遺構確認面は、周辺遺跡の調査を参考に平安時代の浅間山B軽石層(BP)下[1面]、古墳時代の榛名山ニツ岳火山灰(FA)層下[2面]、古墳時

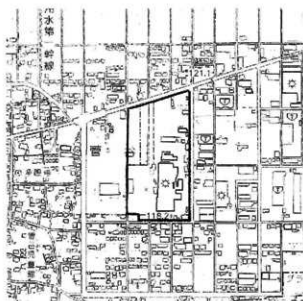


図46 菅谷町村東遺跡位置図

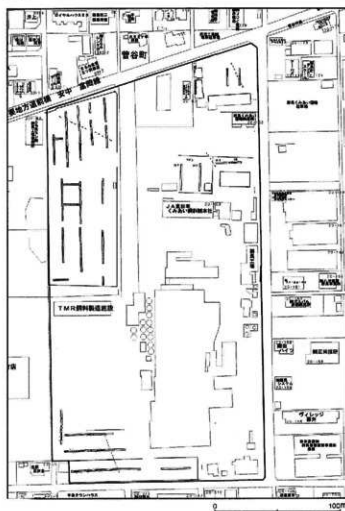


図47 菅谷町村東遺跡トレンチ配置図

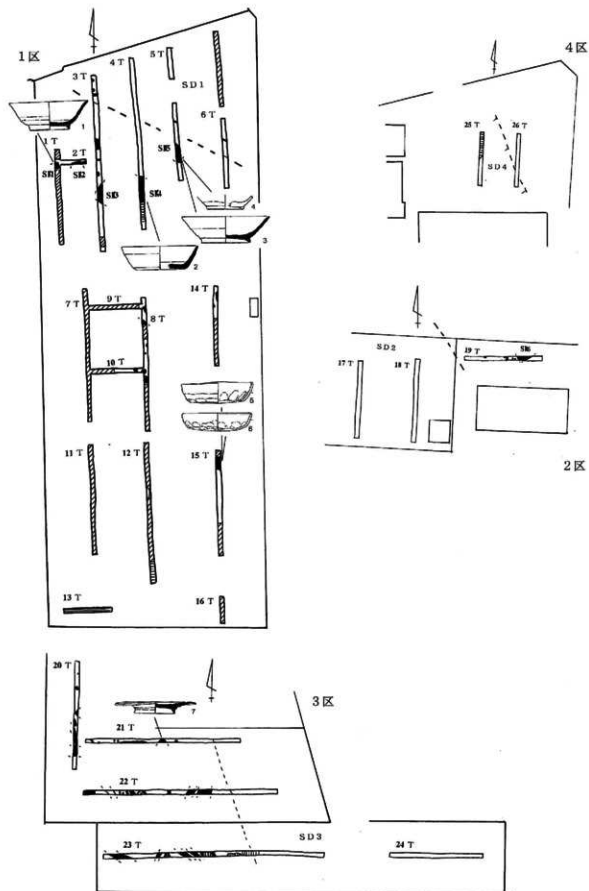


図48 菅谷村東遺跡トレンチ遺構分布図

代の浅間山C軽石（CP）層上部の黒色土（C黒）[3面]と縄文時代の遺構面である茶褐色土層[4面]を対象としたが、一部で1および2面の確認を行った以外は、3面での確認である。

基本層位 敷地全体で造成（工場・駐車場建設時と推定）による盛土整地がされている。盛土下の大部分で、旧表土および耕作土を残すことから、造成による削平はほとんどなく、遺構の保存状態は保たれているようである。

旧表土（耕作土）下は、BPを多く含む黒褐色の混土（B黒）がほぼ共通する。BPの純層は、2区の17・18Tのみ確認された。B黒下は、1面と2面の間に該当するが大部分でFAが混ざった褐色の混土（FA混土）が確認されるが、FA純層は3区24Tで僅かに認める。FA混土下はC黒であり、今回の主要な遺構確認面である3面である。部分的な掘り下げにより、C黒下はCPの純層・黒色土・茶褐色土・ローム層と推移する。

各区の状況 1区 1区では、南北方向を基本に16本のトレンチを設定し425mを調査した。1区は、生コン工場の跡地を駐車場にした為か、盛土下にコンクリート・モルタルが随所に埋置され（図の斜線部分）厚い場所では重機による削削が出来ないため、遺構面の確認が出来なかった。

遺構が確認されたのは、1～5T、8・10・14・15Tで、特に北西の1～5Tでは、焼土・炭化物を覆土に入れる掘り込み遺構（SK1～5）や土坑・Pit等が多く、9・10世紀を中心とする土器類の出土も目立ち集落域と想定された。4～6Tの北側では、3面が下がり濶潤に埋没谷が想定され（SD1）れ遺物が包含される。

7・11～13・16Tの南西部であるが、遺構の広がりが予測され、コンクリートの埋置された深さは遺構確認面に達していない部分が多い。なお、5Tでは縄文土器片、8Tでは古墳時代の埴輪片が出土し注意される。

2区 2区では、3本のトレンチを設定し、69mを調査した。17・18Tは1区のSD1の延長と推定され谷地（SD2）である。湧水で確認が不十分であるが、1.9m下でBPの大豆色の灰層が確認される。今回の調査で最東部の19Tでは、18Tの谷部から上がり東部で掘り込み遺構を検出（SK6）。覆土の土器からやはり平安時代前半の時期であり、1区の集落とは分離される集落域が東に展開されるようである。

3区 3区は東西方向を基本に5本のトレンチを設定し、203mを調査した。遺構を検出したのは、調査区の西側である。北西から南東方向の溝状の遺構が目立ち、他に堅穴住居址状の掘り込みもあるため集落域を想定する。東側（SD3）は、24Tでも更に東に落ちる状況である。1区の集落域と離れるため同一の集落であるか不明であるが、時間的には平行する時期であり、平安時代前半を中心とする。

4区 25Tは「基本土層」で記したとおり、全体が流路中に入ることが想定されSD4と呼称する。西の26Tの堆積傾向と合わせると東側からの落ち込み傾向が強く、砂層と粘土層との堆積境界の方向から、流は西北から東南への方向である。26Tは、北側ほど高い傾向で南側は水の影響を受ける。明確な遺構・遺物は皆無である。保存の所見 平安時代の集落を中心とする遺構の掘りを認めた。遺構確認面は比較的深いのが、開発計画によっては、本調査が必要と思われる。保存協議が必要である。



図49 菅谷村東遺跡出土土器

フリガナ	しないいせきはくつちようさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第227集
編集者名	田口一郎 神戸 肇
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2008年3月31日

高崎市内遺跡

平成20年3月31日 印刷

平成20年3月31日 発行

編集 高崎市教育委員会

発行 高崎市教育委員会

印刷 有限会社 榛輝(はるき)